

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 20

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「ADESOC」報告

ウムチョムゥイーザ学園 2008.6.18

チャールズ校長より



ウムチョムゥイーザ学園の運営が出来るのは、多くの皆様のご協力のおかげです。このような重みのある仕事を支えてくださっている皆様にウムチョムゥイーザ学園を代表して心から感謝申し上げます。

ここに2008年1学期の状況報告をさせていただきます。

- 1 1学期全校生333人の子ども達の約半数しか学費全額の納入をすることが出来ませんでした。そのためにも日本からの支援による職員の給料と運営資金へのご協力は重要でした。
- 2 私達がこの学校を建てた後に周辺には私立校2校と公立校1校が建ち、親が小学校を選べるようになり、子どもの数が減ってきています。しかし、教育内容の質を高めて、民族・宗教・貧富の差を越えて運営している学園の特色を認めてもらえるように努力していきたいと思います。
- 3 物価の急激な上昇により、職員の生活がますます苦しくなっているのが現実です。
- 4 以下1学期（1月9日～4月5日）の収支を報告します。



〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	1,809,042	職員への給料	1,592,557	社会保険料	25,776
日本からの支援	831,259	借金返済	302,140	管理用消耗品	36,320
入学登録料	106,855	ガソリン代	178,924	環境整備費	23,901
バス運行収入	58,817	税金	137,690	自動車税	22,870
水販売収入	8,201	教材印刷等	113,863	通信費	20,567
家畜収入(やぎ・うさぎ)	8,201	年金掛金	89,514	契約書作成料	14,059
		光熱水費	62,894	子ども達の保険	14,059
		建設費	52,724	健康保険料	7,732
		教職員へ貸し金	44,335	郵便私書箱代	5,530
		退職金	35,509	交際費	3,514
		研修費	33,612	家畜用薬	1,155
		小計	2,643,762	小計	175,483
合計	2,822,375			合計	2,819,245
				残金	3,130

これからも、子ども達の夢の実現のために継続的なご協力をよろしくお願いします。

ンザバニータ ムヒーレ ポール教頭より

みなさんこんにちは！今回は2008年からの教育方針の変更についてお知らせします。

1 担任方式から教科方式に変更

2007年11・12月の休みに文部省による小学校教員研修が開催され、学園から4人の先生が参加しました。2人がフランス語2人が英語の研修を受けました。

この研修の成果を学園に生かす方法として、教科方式を選ぶことによって専門的に教えられるようになりました。その他にも6年の地理と歴史の授業を自分が、校長は算数の図形の授業を受け持ちました。先生方の専門分野を生かしてそれを子ども達に伝えるように工夫しています。現在子ども達はそのシステムに慣れて興味を示し、少しずつこの方法の成果が上がってきています。



2 土曜日等の補習授業の実施

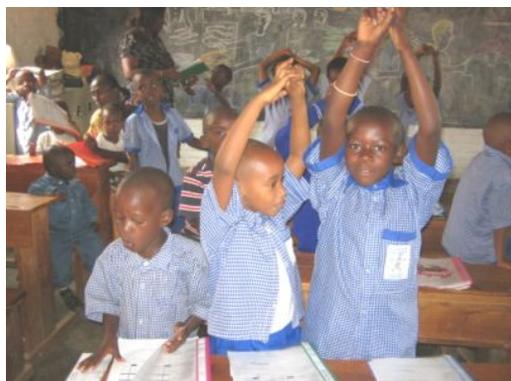
5月1日の会議で教育の質を高めるために土曜日の授業をすることが決まりました。しかし、土曜日に来れない子ども達を配慮して復習を中心に行っています。

また、月曜から金曜日の15時から16時まで先生方は無償で子ども達の遅れている科目を重点的に指導しています。PTAの役員の説明を受けて保護者たちは、先生方の自発的な取り組みを高く評価しました。

3 2・3学期の方針について

5月4日付けに新PTA役員と会議が行われました。議題は、新しいメンバーとの顔合わせと2学期(4月～7月)・3学期(8月～10月)の方針についてでした。この方針を知って一人の教師は退職しました。

その結果、1年(40人)と2年(43人)を3人の先生が担当しています。3年(51人)は2人、4年(56名)は2人、5年(36人)6年(25人)を、担任方式から教科方式で指導しています。



この方針のメリットは

- 1 先生方は空き時間を活用して教材研究する余裕が出来ました。
- 2 先生が教科ごとに変わるので、子ども達に緊張感が出てきました。
- 3 子ども達の抱えている問題がわかり先生間の協力によって解決することが可能となりました。

4 まとめ

子ども達の意欲を高めて学ぶ楽しさを通して成長させるために、先生方のスキルアップを伸ばすなど、環境整備に努めていきたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願い致します。



念ずればかなう

須賀川市社会福祉協議会 会長 西間木 セツ子

「あなたにとって一番大切なものは何ですか？」



これは、須賀川市社会福祉協議会ボランティアナイトセミナー（2008.6.24）講師カンベンガ・マリールイズさんの問いかけであった。

この日、100人を越える参加者の中からは「お金」「お位牌」「命」などの答えが。年齢や環境の違いで様々だったが、ルイズさんが最も大切とされる「命の尊さ」は、ルワンダの内戦の悲劇から学んだことで何よりも説得力がある。

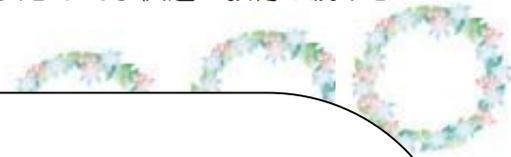
日本人は平和と豊かさに恵まれた反面、感謝や感動の心を失いつつあることに気付かされた。

そしてルイズさんが熱い思いの中から平和で命があり、生きていてよかったという「今の瞬間をもっと感動して下さい」との言葉が強く心の奥に響いた。

ルワンダは人口900万人のうち、15世帯中1世帯は子供が世帯主とのこと。日本の国旗が常にルワンダの国旗と並んで掲げられている。日本から贈られた大型バスが通勤の送迎バスや、農作物運搬などに重要な役割を果たし、絶対に交通事故など起こさないという。

世界最多の女性議員（3割）。女性の視点で政治へ参加、内戦も治まり平和がよみがえったそうだ。

ルイズさんが「念ずればかなう」の信念を貫かれ、今後安心して子供達の教育が続けられることを祈りたい。



居場所づくりから始まった募金

プチット・マリー会 駒田 瑞穂

私は、カトリック松木町教会に所属し、中学生・高校生のグループ（プチット・マリー会）の世話を20年前からしています。教会での彼らの居場所づくりのために、毎週日曜日のミサ後に小さなコーヒESHOPを開き、クッキーとコーヒーで100円の募金をしてもらい、それを発展途上国の子供達のために使ってもらおうと計画をして実施しています。



同じ教会の、メンバーにマリールイズさんがいたことからルワンダの様子を知りました。ルワンダで起こった内戦、それは私達の予想をはるかに上回るほどの悲惨なものでした。

マリールイズさんは、平和な国づくりのためには内戦で親を失ったり、傷ついた子供達の心を癒し、荒廃した祖国を建てなおすには教育が必要、そのためには学校を作りたいという強い夢をもち、その実現のために行動を起こしていました。彼女の活動を継続的に応援していこうと生徒達とも話し合い、7年前から1年間の売上金、約7万2千円を募金として渡し、学校づくりの一部に使ってもらっています。

この運動をカトリック教会の皆様もさりげなく応援して下さり、自分で作ったケーキなどを差し入れてくださったり、コーヒーは飲めないけど募金ですと、100円を入れてくれたり、東京からも募金して下さる方がいたり輪が広がっています。

マザー・テレサは、「私のやることは、大海の一滴ですがその一滴がなければ大海にならない。」とおっしゃっています。私達もこの活動を通して、思春期を迎えている中学生・高校生が世界中の子供達とつながり、何かの役に立ち、必要とされ、この世に存在していることに気づき、心豊かに生活するきっかけをいただき感謝しています。

つまり、「与えることにより、与えられている」のです。

このように居場所づくりから始まった募金活動は、ミサ後の情報交換の場を提供したり、ルワンダの事を思ったり、プチット・マリー会のOBやOGのたまり場になったりの相乗効果も生み出しています。

ボランティア活動は、続けることに意義があるので私も身体の続く限り関わり、うまくバトンタッチして、マリールイズさんの夢実現のために、これからもサポートしていきたいと思っています。



NPO 法人 ルワンダの教育を考える会 PRESENTS!! ルワンダ DAY in ふくしま

マウンテンマウスコンサート



山口県から
若い二人が、
いま、平和を歌う!!

●マウンテンマウス●

山口県周防大島出身の、兄・中谷昌史と妹・中谷愛美の兄妹デュオです。

マリー・ルイズの内戦を経験した平和への熱い思いに感動し、今回ルワンダの子ども達の健やかな成長を願って、作詞作曲した歌を福島へ届けてくれました。

第1部

アフリカのルワンダ内戦から生き残ったマリー・ルイズが、ルワンダの子ども達の映像と共に子ども達や学校の現状を語ります。

第2部

マウンテンマウスコンサート

生き残った思いを未来へつなぐ

ルワンダ DAY in ふくしま

ぜひお越し下さい!!



日時 **2008年10月4日(土)** 開場 13:30 開演 14:00
場所 富田西ふれあいセンター・富田西地域公民館(郡山市)
日時 **2008年10月5日(日)** 開場 13:30 開演 14:00
場所 桜の聖母マリアンホール(福島市)
チケット 大人:1,000円 / 高校生以下:500円(全席自由)
※10月4日・5日どちらでも入場可

○チケット販売及び両会場にて、ルワンダの写真展及び民芸品販売をいたします。

お手伝いいただける方を募集しております。

*皆様のご意見を、お待ちしております！

編集後記
吾妻山から里へスキヤ
トンボなど秋がおりてきて
いるようです。
今からマウンテンマウス
コンサートが楽しみです。
地球上の子ども達の笑顔
が増えるといいなと思える
一日になったらと思います。

ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 かパング・マリルズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

